第一回

令和三年度

宇都宮短期大学附属中学校

入学試験問題

国語

注意

1 「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
2 試験時間は四〇分間です。
3 問題数は大きな問題が三問で、問題文は一ページから七ページまであります。
4 答えはすべて解答用紙に記入してください。
5 先生の合図があったら、すぐに受験番号と氏名を解答用紙に記入してください。
6 試験中に質問があれば、手をあげて先生に聞いてください。
7 「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおいてください。

〔一〕

次の、言葉に関するそれぞれの問いに答えなさい。

問い1 次の――線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(1) 議長を**ツト**める。
(2) 地元の**レキシ**を調べる。
(3) 大きな船で**航海**する。
(4) 生命の**営**みに感動する。
(5) **暗雲**がたちこめる。

問い2 次の意味の慣用句の□に入る色を漢字一字でそれぞれ答えなさい。

(1) □の他人（まったくの他人）
(2) □羽の矢が立つ（多くの人の中から、これぞと思う人が選ばれる）
(3) 白□をつける（物事の善悪をはっきりさせる）

問い3 次の――線部の漢字の読み方が異なるものを次から選んで、記号で答えなさい。

(1)
ア 人生
イ 中学生
ウ 生活
エ 一生

(2)
ア 月見
イ 満月
ウ 月末
エ 名月

問い4 次の漢字の部首はなにか。それぞれ**ひらがな**で答えなさい。

(1) 鈴　　(2) 算

問い5 次の漢字はあるルールにしたがって表されており、□にはある感覚器が入る。その漢字を答えなさい。

四　九　三　兆
←　←　←　←
目　□　舌　耳

ヒント：右側の漢字の読みに注意してみよう。

〔二〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本人の数ある特徴のなかで、ぼくがここで指摘したいのは、ぬくもりと、魅力的なあどけなさです。もしかするとそれが最もよく表れているのは、①幼い子に対する日本人の反応ではないでしょうか。

いや、幼い子に優しく接するのは、世界中の人に共通の現象だろう、と言われるかもしれません。しかし、スーザンとぼくが、子育ての時期にほぼ毎日経験していたことには、日本ならではの側面もありました。

たとえばぼくらが子供を連れていると、公園でも電車でも、よく中学生らしき少年が近づいて来て、笑顔で「かわ

いいですね」と言ったものです。ぼくは、②よその国で、そういうことを少年が言うのを聞いたことは一度もありません。

ちかごろ欧米諸国では、見知らぬ人が自分の子に話しかけたり、微笑んできたりすれば、誰でも警戒します。日本ではどこでも子供への愛情が感じられます。渥美清(注1)さんは、大人がよその子を叱らなくなったと言っていましたが、それでもやはり、うちの子はみんなの子、みんなの子はうちの子という意識が強いと思います。

それから母子手帳(注2)という制度は、すべての国が採用すべきものだと思います。たしかにそれは、戦時中に子供という資源を絶やさないための国策の一つとして始まったものかもしれませんが、いまでは妊娠し母となった女性と新生児との軌跡を記録し、健康を守るための素晴らしい手段となっています。我が家も子供が日本で生まれたときにもらった四冊の母子手帳をいまも大切にしています。

スーザンは妊娠中、銀行にトイレがあることに感謝していました。欧米では、銀行のトイレは使わせてもらえません。スーザンのお腹がふくらむにつれて、膀胱(注3)にかかる圧力も高まってきます。そんなとき、銀行でお客を出迎え、用紙の記入のしかたを教える係の老行員は、スーザンがしょっちゅう銀行に立ち寄るわりには、金を引き出しも預けもせずに帰ってゆくのはなぜか、③ちゃんとわかっていたのです。

東京の駅はどれも、④一つの小さな町のようなものです。遠くまで行かなくても、そこで何でも手に入る。つまり世界最大級の大都市にいながら、駅のまわりで村のような暮らしができるということです。これには、よその国の大都市では手に入らないぬくもりや安心感があります。ぼくは一九八三年に、祖師谷(注4)の商店街に何があるか、すべてリストアップしてみました。ケーキ店、美容院、医院、食料品店など、実にいろんなものがありました。二〇〇六年に同じ調査をして比較し、東京の生活様式がどれほど変化したのかを『ジャパンタイムズ(注5)』紙上で発表しました。ところが、わかったのは、ほとんど変化はないということでした。祖師ヶ谷大蔵(注6)駅の周辺に住んでいる人々が必要とし欲するものは、二三年前とほぼ同じだったのです。最寄り駅は自分の町でもあるのです。

日本人が⑤礼儀正しく振る舞う習慣を、形式ばった堅苦しいものだと感じる人もいます。多くの場合、もちろんそれは単なる形式的な決まり事にすぎません。とはいえ、自分は悪くないのに謝るといった、憎(注7)い親切な一面もあります。

ぼくら西洋人は、悪いのは誰か、にこだわる傾向があります。もしぼくが電車であなたに足を踏まれたら、あなたの謝罪を期待するでしょう。踏まれたぼくのほうが謝るなんていうことは、絶対にありえません。でも考えてみれば、私の足のほうが、あなたの足の下にすべり込んだのかもしれませんよね。つまり、どっちもどっちというわけです。日本のように、両者が礼儀正しくお詫びを言えば、雰囲気も良いし衝突も避けられるけど、この状況でそんなふうになることは、日本以外の国ではあまり見られません。

西洋からきたぼくが、いつも驚くのは、日本では労働者階級の人も礼儀正しいということです。アメリカでは絶対にないことだし、ヨーロッパ、オーストラリア、ロシア、中国でも、おそらくほかの世界中のほとんどの国でもないことでしょう。日本の建設現場で交通整理をしている男性や女性はいつも、歩行者にご迷惑をかけてすみませんと謝っています。ぼくが深泥池(注8)町に住んでいたころ、トイレは水洗式ではありませんでした。くみ取り業者が来て、全部持って行ってくれるのです。そのくみ取り業者でさえも、ぼくに丁寧語を使い、手間を取らせて悪いと謝っていました（他のほとんどの国では、階級によって礼儀正しさの程度が違う。労働者階級の人が丁寧になるのは、上の人にきちんとした態度をとる必要のあるとき、たとえば支払いを求めるときなどだけである）。

このような礼儀正しさは、日本社会の全体に行きわたる⑥共同精神のあらわれでもあります。この協力の精神は、よその国では、戦争のような特定の時期だけ現れることもあるけれど、もう必要ないとなれば、たちまち消えてしまい

ます。日本では、災害がおこったときには、この協力の精神がすべてに優先され、国民が一丸となって、被災地の復興を支援します。東日本大震災が東北を襲ったあとに、東京や他の大都市の人々が見せた自粛ムードは、この精神から発している面があります。つまりそれは、自分自身は直接被害を受けたわけではないけど、被災者と悲しみを分かち合い、贅沢を避けて思いやりを示したいという気持ちなのです。

しかし日本では、平時(注9)に共同精神が見られることもよくあります。たとえば「みんなのおかげ」という言葉。何か良いことがあったり、褒められたりした場合、真っ先に出てくるのは「みんなのおかげ」という言葉です（それが本当かどうかは別として）。それは言うまでもなく、謙虚さのしるしです。謙虚さもまた、海外の国が見習ったほうがよい日本人の美点の一つです。それはまた、協力の精神のあらわれでもあります。一番褒められるべき人が誰であろうと、みんな一緒に褒めてもらうのが一番うれしいという精神です。

（ロジャー・パルバース／坂野由紀子訳『もし、日本という国がなかったら』から）

（注1）渥美清＝日本のコメディアン、俳優。
（注2）母子手帳＝母子健康手帳のこと。
（注3）膀胱＝尿を一時的に溜めておく臓器。
（注4）祖師谷＝東京都世田谷区の地名。
（注5）ジャパンタイムズ＝英字新聞を発行する日本の新聞社。
（注6）祖師ヶ谷大蔵駅＝東京都世田谷区祖師谷にある駅。
（注7）憎い＝ここでは「感心する」の意味。
（注8）深泥池町＝京都府京都市北区上賀茂の地名。
（注9）平時＝普段。平和な時。

問い1 ① 幼い子に対する日本人の反応とありますが、どのような反応ですか。解答らんの「～という反応」につながるように、本文中から探し、十字で書きぬきなさい。

問い2 ② よその国……一度もありません。とありますが、その理由を、解答らんの「するから」につながるように本文中から三十四字で探し、最初と最後の五字を書きぬきなさい。

問い3 ③ ちゃんとわかっていたとありますが、何をわかっていたのか。最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア スーザンは妊婦でトイレにすぐ入りたくなるため、銀行にトイレを借りに来ていること
イ スーザンはこの銀行の職員であり、老行員の接客態度を評価しに来ていること
ウ スーザンは銀行に預金がないため、お金を引き出したくても引き出せないこと
エ スーザンは日本の銀行の使い方を知らないため、トイレしか使えないこと

問い4 ④ 一つの小さな町のようなものとありますが、この文に使われている表現技法として最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 反復法
イ 比ゆ法
ウ 体言止め
エ 倒置法

問い5 ⑤礼儀正しく振る舞う習慣の具体例を本文中から探し、十一字で書きぬきなさい。また、海外ではどのように振る舞うか本文中から探し、十七字で書きぬきなさい。

問い6 ⑥共同精神を言いかえた言葉を本文中から探し、五字で書きぬきなさい。

問い7 **問い6**の精神は、災害時と平時ではそれぞれどのような気持ちとして表れるか。最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 他人に関わらないことで、自分を守りたいという気持ち
イ 自分だけではなく、みんなと一緒に褒められたいという気持ち
ウ 悲しみを分かち合い、思いやりを示したいという気持ち
エ 自分よりも目上の人に礼儀正しくして、褒められたいという気持ち
オ 自分さえよければ、他人はどのような目にあってもよいという気持ち

〔三〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「私」の家にはかつて「キリコさん」という若いお手伝いさんがいた。家にいた期間は「私」が十一歳から十二歳になる間の一年足らずと、とても短い期間であったが、「キリコさん」はいつも「私」の味方になってくれた。次の文章は父が海外出張から戻ったときの話である。

十一歳の夏休み、仕事で一ヵ月ヨーロッパを回っていた父親から、①お土産に万年筆をもらった。銀色で細身の、スイス製の万年筆だった。

キャップを取ると、磨き込まれた流線型のペン先が現われ、それは見ているだけでも胸が高鳴るほどに美しく、持ち手の裏側にはその曲線によく似合う筆記体で、私のイニシャルＹＨが彫ってあった。

おもちゃ以外のお土産をもらうのは生まれて初めてだったし、まわりで万年筆を使っている子など一人もいなかったから、自分が一足飛びに大人になったような気がした。この万年筆さえ手にしていれば、何か特別な力を発揮できると信じた。

私はいつどんな時も、②書きたくて書きたくてたまらなくなった。国語の漢字練習帳がいるからと母に嘘をつき、お金をもらって大学ノートを買った。学校から帰るとランドセルを置き、真っすぐ机の前に向かってとにかく万年筆のキャップを外した。

いざとなって、自分が何を書くつもりなのか、ちっとも考えていないことに気づいたが、私はひるまなかった。そんなことは大した問題とは思えなかった。インクがしみ出してくる瞬間や、紙とペン先がこすれ合う音や、罫線の間を埋めてゆく文字の連なりの方が、ずっと大事なのだった。

大人たちはすぐに、娘が何やら夢中になって書いていると気づいたが、必要以上に干渉(注1)はしなかった。とにかく机の前で書き物をしているのだから、それは勉学、例えば漢字の書き取りのようなものに違いないと思い込んだらしい。

スリッパをはいて階段を登ってはいけないとか、お風呂に入った後は冷たいものを飲んではいけないとか、あの頃課せられていた多くの禁止事項の中に、〝書き物〟が加えられなかった代わりに、大人たちは誰も書かれた内容については興味を示さなかった。どうせ自分たちの知っている漢字ばかりなんだから、という訳だ。

私はまず手始めに、自分の好きな本の一節を書き写してみた。『ファーブル昆虫記』(注2)のフンコロガシの章。『太陽の戦士』の出だしのところ。『アンデルセン童話集』から『ヒナギク』と『赤いくつ』。アン・シャーリーが朗読する詩。『恐竜図鑑』のプテラノドンの項。『世界のお菓子』、トライフル(注3)とマカロンの作り方。……

想像したよりずっとわくわくする作業だった。【A】自分が考えた言葉ではないにしても、それらが私の指先を擦り抜けて目の前に現われた途端、いとおしい気持に満たされた。

言葉たちはみんな私の味方だ。あやふやなもの、じれったいもの、臆病なもの、何でもすべて形に変えてくれる。

③ブルーブラックのインクで縁取られた、言葉という形に。

そしてふと気がついて手を休めると、ノート一面びっしり文字で埋めつくされている。ついさっきまでただの白い紙だったページに、意味が与えられている。しかもそれを授けたのは自分自身なのだ。

私は【B】の両方に浸りながらページを撫で付けた。【C】世界の隠された法則を、手に入れたかのような気分だった。

④〝書き物〟に対する態度が、他の大人と唯一違っていたのがキリコさんだった。干渉しない点については同じだが、彼女は明らかにこの作業を、勉学とは違う種類のものとして認めていた。敬意さえ払っていたと言ってもいい。

子供部屋やダイニングテーブルで作業に熱中している私を見つけると、一瞬キリコさんは立ち止まり、姿勢をただし、邪魔しないように注意を払いながら通り過ぎた。あるいはおやつを運んでくる時は、不用意にノートの中身に目をやって盗み見していると誤解されないよう、気を使っているのが分かった。自分の手元に視線を落とし、一切声は掛けず、ノートからできるだけ遠いところにジュースを置いた。コップに付いた水滴で、ページが濡れてはいけないと思ったからだろう。

やがて私は他人の文章を書き写すだけでは満足できなくなり、作文とも日記ともお話ともつかないものを書き付けるようになった。クラスメイト全員の人物評と先生の悪口、一週間の食事メニュー、百万円あったら買いたい品物のリスト、テレビ漫画の予想ストーリー、自分の生い立ち・みなしご編(注4)、無人島への架空の旅行記。とにかく、ありとあらゆるものだった。

今日は何にも書くことがないという日は、一日もなかった。⑤キャップさえ外せば、万年筆はいつでも忠実に働いた。だから初めてインクが切れた時は、うろたえた。

「どうしよう、万年筆が壊れちゃった」

私は叫び声を上げた。

「もう壊しちゃったの？　せっかくのパパのお土産なのに。新しいのは買いませんからね。壊したあなたが悪いんです」

⑥新しいのは買いませんからね――これが母の口癖であり、得意の台詞だった。私は自分の不注意を呪い、絶望して泣いた。

「大丈夫。インクが切れただけなんだから、補充すれば元通りよ」

救ってくれたのは、やはりキリコさんだった。

「スイスのインクなのよ。パパがまたスイスへ行くまで待たなきゃならないの？」

「いいえ。街の文房具屋さんへ行けば、必ず売っています」

⑦必ずという言葉を強調するように、キリコさんは大きくうなずいた。キリコさんは正しかった。私は万年筆を壊してなどいなかった。約束どおり彼女は新しいインクを買ってきて、補充してくれた。ケースの裏に書いてある説明書

は外国語だったから、二人とも読めなかったけれど、彼女は慎重に方向を見定め、崇高な儀式の仕上げをするように、万年筆の奥にインクを押し込めた。

「ほらね」

それがよみがえったのを確かめると、キリコさんは得意そうに唇をなめた。一層唇が光って見えた。

（小川洋子『キリコさんの失敗』から）

（注1）干渉＝他人のことに立ちいり、無理やり自分の意思に従わせようと指図・妨害すること。

（注2）『ファーブル昆虫記』＝本のタイトル。『　　』でくくっているものも同様。

（注3）トライフル＝カスタードクリームやスポンジケーキ、フルーツを層状に重ねたデザート。

（注4）みなしご＝死に別れたり捨てられたりして両親のない子。

（注5）崇高＝気高くて尊い様子。

問い1 ①お土産に万年筆をもらった。とありますが、そのときの「私」はどのような気持ちだったか。最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 父親がせっかく買ってくれたものではあったが、使い方が分からず困っている。

イ 父親が自分の書いた文章の上手さをほめてくれたように感じ、満足している。

ウ 父親が自分の成長を認めてくれたように感じ、その美しさに感激している。

エ 父親がわざわざ買ってくれたものなので、とっておきのときに使おうと思っている。

問い2 ②書きたくて書きたくてたまらなくなった。とありますが、「私」が「書くこと」について気に入っていることがらを三つ書き抜きなさい。

問い3 文中の□**A・C**に入ることばとして最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

A **ア** きっと　**イ** ほとんど　**ウ** たとえ　**エ** まさか

C **ア** まるで　**イ** どうか　**ウ** おそらく　**エ** 少しも

問い4 ③ブルーブラックのインクで縁取られた、言葉という形とありますが、何のことですか。かんたんに説明しなさい。

問い5 文中の□**B**に入ることばとして最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 疲労感と優越感　**イ** 絶望感と安心感　**ウ** 危機感と充実感　**エ** 緊張感と脱力感

問い6 ④〝書き物〟に対する態度が、他の大人と唯一違っていたのがキリコさんだった。とありますが、「キリコさん」の様子として最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 「私」のしていることに、あれこれと口をはさみたい様子

イ 「私」がしていることを認め、あたたかく見守ろうとする様子

ウ 「私」がしていることを両親に告げ口したい様子

エ 「私」のしていることに、あきれ果てている様子

問い7 ⑤キャップさえ外せば、万年筆はいつでも忠実に働いた。とありますが、「私」にとって万年筆はどのようなものだと考えていますか。後の文の空らんに入る語句を**ア**は九字、**イ**は六字でそれぞれ書きぬきなさい。

私の頭の中に次々と浮かぶ、様々な空想など［**ア**］を［**イ**］に変えてくれるもの

問い8 ⑥新しいのは買いませんからねとありますが、「私」は母のこの台詞についてどのように思っているか。最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 壊してしまったのは自分であり、母の言うことはもっともだ。

イ かたくなな態度の母に、なんとしてもお願いを聞いてもらいたい。

ウ 心の底からお願いをすれば、もしかしたら聞き入れられるかもしれない。

エ たとえ助けを求めても、どうせ今回も手を差し伸べてくれないだろう。

問い9 ⑦必ずという言葉を強調するように、キリコさんは大きくうなずいた。とありますが、「キリコさん」の気持ちとして適当ではないものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア インク自体は特に珍しいものでもないので、どこにでも売っていると確信している。

イ 他愛のないトラブルに困惑している私に対して、苛立ちをかくせないでいる。

ウ 外国語はわからないけれど万年筆の造りのことはわかるので、直す自信を持っている。

エ 万年筆を壊してしまったと落ち込んでいる私のことを、安心させようと思っている。